

# 北信教育事務所だより 第2号

平成30年6月12日(火)

～子どもに発し、子どもに還る 学校づくり 授業づくり～

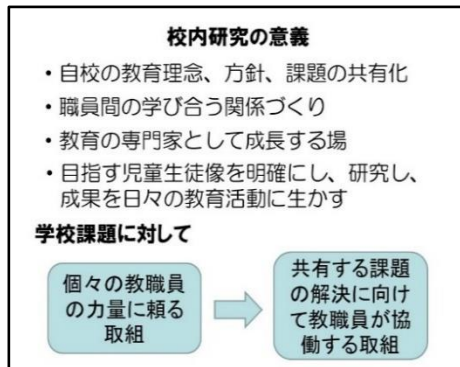
## もくじ

- ・自校の学力向上PDCAサイクルの構築に向けて …1
- ・初任者研修がはじまりました …2
- ・全国学調を活用した授業改善 …3
- ・外国籍等児童生徒指導研修会 …4
- わくわくスポーツセミナー
- ・信州型コミュニティスクール …5
- 人権教育研修会
- ・いじめ・不登校対策、 …6
- S S Wの訪問について
- ・キラ☆と輝く …7
- 子どもの先生の笑顔
- 総務課からのお知らせ

## 自校の学力向上PDCAサイクルの構築に向けて

～具体的にやるべきことが見えて、  
とてもうれしく思います～

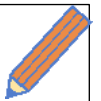
(研究主任研修会の参加者より)



「校内の研究を充実させるために取り組んでみたいこと」  
例えば・・・

- ・先生方が自由に意見や課題を出せる場を作る。
  - ・校内の先生方で見合えるような模擬授業を行う。
  - ・いつでも授業を見に行ってもよい週間・旬間を設ける。
  - ・授業後の板書を掲示し、見合ったり話し合ったりする。
  - ・研究だより(各部会の取り組み状況、一公開などでよかった点やうまくいかなかった点などまとめたものなど)を発行する
- (研究主任研修会の中で考えた取り組み)

☆いいなと思った取り組みを研究主任に伝えてみて下さい。



先生方の日々の「ちょっとした工夫」の積み重ねが、子どもたちの学力向上につながります。北信教育事務所では、各校の学力向上PDCAサイクルの構築に向けて、ゾーン担当主事による訪問支援があります。追加訪問の要請が可能ですので、ぜひご活用ください。

## 北信地区の風景



飯山市 菜の花まつり  
平成30年5月



### 平成30年度重点目標・キーワード

学校教育課  
“語らい つなぐ”  
生涯学習課  
“学びをつなげて  
人づくり 地域づくり”

1学期も半ばを迎えます。各校の研究体制もでき、充実した日々をお過ごしのことと思います。指導主事による学校訪問支援も始まりました。子どもたちの笑顔のために、ともに語らいましょう。事務所だよりについて、ご意見・ご感想・ご希望等ありましたら、お寄せ下さい。

(メール [hokushin-s@pref.nagano.lg.jp](mailto:hokushin-s@pref.nagano.lg.jp) まで)

# 初任者研修がはじまりました

城山小学校と柳町中学校の2会場で先輩の授業を参観し、授業づくりについて学びました。

## 5月 授業力向上研修Ⅰ



初任のA先生

### 【研修前】

毎日の授業で「もっとこうすればよかった」と反省することがたくさん出てきます。次の授業に生かすため、見せてくださる先生方の授業から学びたいです。



【自ら課題を持って臨んだ授業参観】



【明日に生かせる研修の場となった研究会】

### 【研修後】

授業を参観して、子どもの実態を的確に捉えた教材提示の大切さを痛感しました。授業者の先生は、数ある資料の中から、苦手意識を抱いている子どもでも自ら取り組むことができるものを用意していました。

わかっていたつもりでしたが、私は子どもと「共にある」ことをおろそかにしていたかもしれません。これまでの自分の授業で、子どもにあった形で教材を選んでいたかをもう一度振り返ります。



まとめ記入用紙の「指導教員または教頭先生からのコメント」から、各校での初任の先生方へのご指導の様子や指導教員の先生方の思いが伝わってきました。

1時間の授業のために教材研究をし、授業後に振り返り、それを次の授業に生かそうとしている姿勢は、立派です。これからも子どもの姿から学び子どもと共に成長する気持ちを持ち続けましょう。



指導教員の先生

◇初任の先生方は夢と希望を胸に第一歩を踏み出しました。同時に、子どもとの関わりを通して、学級経営や授業づくりについて抱える課題や悩みが具体的になってきています。

◇6月5日（火）には、教師力向上研修Ⅰが行われました。そのときの様子をもとに、ぜひ校内で語らっていただきたいです。引き続き、指導教員をはじめ校内の先生方から初任の先生方へのご指導、ご助言をよろしく願いします。

教育事務所も初任の先生方と語り合いながら支援の方向を探り、応援してまいります。



# 解答類型（誤答傾向）から子どもの学びの姿を語り合い、授業改善への糸口をつかみませんか

## 誤答傾向を授業改善につなげる“KJ法の活用”

～全国学力・学習状況調査の早期採点訪問支援より～

小学校では、国語Bと算数Bの記述問題の採点を行った後、誤答の様子を付箋に書き、その付箋を画用紙の上に分類して貼り、学級全体の誤答傾向をつかみました。先生方からは、終始、つぶやきの声や会話が生まれました。

### 誤答の傾向

「白紙」

条件にそって書いていない

書き抜きできない



### 指導の改善

自分の立場をはっきりさせ、何を根拠に話すのか意識した発表を心がけるようにしよう。

「問題文が読めていないよね」

### 子どもの実態

「白紙が少なく、がんばって書いているなあ」

「適切な部分を抜き出せていないね」

### 指導の課題（授業の振り返り）

「授業で「考えを書いてまとめよう」という活動を行っているので、それが少しずつ形になってきている」

「説明文で、どの部分を根拠にそれが言えるかを明確に言えるような授業ができていない」

## 根拠をもとに意見の比較を～全国学調を活用した授業改善への第一歩～

根拠をもとに自分の意見をどう表現するか



「言葉を丁寧に使いたい」と思うけど、どうやって意見を取り上げて書いていけばいいの？

### ポイント1：根拠に注目

北川さんや小池さんが根拠に挙げていることに注目してみよう。



北川さんの「省略すると意味がわからなくなる」って、確かにそう思うな。

### ポイント2：意見を比較

北川さんの根拠をもとに、共通するところや違うところはないか、自分の意見と比べてみよう。



私の考える「言葉を丁寧に使いたい」は、言葉を省略しないで使うことにもつながると思う。



根拠に注目して同じところがあるか比べてみたら、つながりが見えて、自分の意見がはっきりしてきた。これなら書けそう。

話し合いの様子の一部

田中 ぼくは、言葉はみだれていると思います。調べてみると、本来の意味とは異なる使われ方をしている言葉があるということが分かったからです。文化庁の「国語に関する世論調査」では、「役不足」という言葉について、「本人の力量に対して役目が軽すぎる」という本来の意味を選んだ人は四十一・六パーセントでした。半数以上の人は、本来の意味とは異なる使われ方をしているようです。私も、言葉はみだれていると思います。なぜなら、言葉を省略して話す人が多いからです。例えば、「今年もよろしくお願いします」を「ことよろ」と言うことがあります。省略すると相手や場に合わせていない言葉になったり、意味が分からなくなったりすることがあると思います。

北川 私は、言葉はみだれていないと思います。例えば、「全然」は「全然ない」のように、あとに打ち消しの言葉がくるときに使うことが多いのですが、最近では、「全然いい」という使い方をする人もいます。また、辞書によると、あとにくるのが打ち消しの言葉に限らない時期もあったそうです。このように、時代によって言葉の使われ方は変わるから、今まではちがう使われ方だとしても、言葉がみだれているとは言えないと思います。

小池 私は、言葉はみだれていないと思います。例えば、「全然」は「全然ない」のように、あとに打ち消しの言葉がくるときに使うことが多いのですが、最近では、「全然いい」という使い方をする人もいます。また、辞書によると、あとにくるのが打ち消しの言葉に限らない時期もあったそうです。このように、時代によって言葉の使われ方は変わるから、今まではちがう使われ方だとしても、言葉がみだれているとは言えないと思います。

金子 田中さんが話したように、ぼくも本来の意味とは異なる使われ方をしている言葉は確かに多いと思います。これからは、よく使っている言葉でも、疑問をもったときは意味を調べてみたいと思います。

青木 本来の意味とは異なる使われ方をしていると田中さんは言っていました。そのような使われ方をしている自分の思いが相手に伝わることはあると思います。相手の理解を確かめながら言葉を使っていこうと思います。

松山

◇司会 金子さんや青木さんは、これから言葉をどのように使っていきたいかについて話していました。みなさんも、そのことについての自分の考えも話してください。

三 松山さんは、「話し合いの様子の一部」の□で、自分の考えを話します。あなたが松山さんなら、どのような考えを話しますか。その内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

- 金子さんや青木さんのように、代表で発表した北川さん、小池さんのいずれかの意見をとり上げ、その取り上げたことに対してどう考えるのかを書くこと。
- ◇司会が話しているように、「これから言葉をどのように使っていきたいか」について書くこと。
- 八十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

（話し合いが続く）

H30 全国学力・学習状況調査「小学校国語B」より一部抜粋

共通点や相違点を整理しながら友だちの意見と比べることを通して、自分の意見をまとめていくことは、日頃の授業から意識できそうです。



# 第1回外国籍等児童生徒指導研修会 兼 第1回長野市日本語指導連絡協議会 開催

長野県国際化協会 日本語学習主任コーディネーター  
塩澤正男先生の講演に学ぶ

「どの子どもかけがえのない存在です。子どもたちのよさや可能性を大事にしながら『感動・感謝・祈り』を忘れずに、支援を重ねていきたいです」(講演の結びより)



5月17日(木)に「外国籍等児童生徒指導研修会」が開催されました。塩澤正男先生を講師にお迎えし、「忘れられない子どもたち……」と題した講演を伺いました。塩澤先生が出会った子どもたちのエピソードや子どもたちに対する先生の温かな眼差しに、参会者の中には涙ぐむ方もおられました。エピソードで紹介された、女子生徒も研修会に参加し、支援を受けたことで、自分の強みを生かして前に進むことができた、と日本語で力強く語ってくれました。



「私の周りには、私を助けてくれるたくさんの方がいます。彼らは前に進む力を与えてくれました。……これから入学する外国籍の児童生徒のために、学校からの理解とサポートをお願いします」

## 参会者の声

外国籍等の子どもたちへの適切な支援が、自立へつながることを実感でき、日本語教室を担当している私達のやりがいも、改めて感じる事ができた。

「子どもたちの持っている可能性を信じる」という塩澤先生の言葉が印象に残った。

支援を受けながら長野市内の中学校を卒業。現在は高校生活を送っている女子生徒も参加(3年前にフィリピンから来日)

外国籍の子どもだけでなく、子どもに寄り添うことは、どの子にとっても大切だと感じた。



## 第1回わくわくスポーツセミナー

5月20日(日)長野市柳原公民館・体育館で「第1回わくわくスポーツセミナー」を開催しました。公益財団法人身体教育医学研究所指導部長 渡邊 真也さんに講師をお願いし『遊びの本質から考えよう! “心が動いて体が動く” 運動遊びの提案』第2弾をテーマに研修を行いました。



### 【参加者の感想】

- ・自分の保育を振り返る良い機会になりました。子どもが自然に「やりたい!」「楽しそう!」と思える保育をしていきたいと思えます。早速、明日から実践していきたいと思えます。
- ・小学校低学年でも、やりたいと思える内容のばかりだったので、明日から行っていきたいと思えます。やっている私も、とても楽しかったです。

第2回わくわくスポーツセミナーは10月27日(土)長野県障がい者福祉センターを会場に開催します。各学校、園、市町村教育委員会等を通してご案内します。大勢の参加をお待ちしています。

# 信州型コミュニティスクールの充実に向けて

## 信州型コミュニティスクール推進セミナーを開催します

県内各地の学校で「地域とともにある学校づくり」の取り組みが進められています。北信地区でも、昨年度すべての小・中学校で信州型コミュニティスクールや文科省のコミュニティ・スクールの仕組みが整い、それぞれの学校で地域の特色や地域とのつながりを生かした多様な取り組みが行われています。

信州型コミュニティスクールのさらなる充実に向けて、次の3会場にて推進セミナーを開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

- ① 6月14日（木）長野市役所第二庁舎（長野地区対象）  
ポスターセッション・・・浅川小学校、湯谷小学校、大豆島小学校、松代中学校  
安茂里小学校、青木島小学校、信州新町小学校、裾花中学校
- ② 7月 5日（木）千曲市総合教育センター（更埴地区、上高井地区対象）  
実践事例・・・常盤中学校
- ③ 7月10日（火）北信合同庁舎（飯水地区、中野・下高井地区、上水内地区対象）  
↳中野市大字壁田 955  
実践事例・・・常盤中学校

### 【問い合わせ】

北信教育事務所生涯学習課 担当:西澤 慎治  
〒380-0836 長野市大字南長野南県町686-1  
電話:026-234-9552  
FAX:026-234-9557  
E-mail:[hokushinky@pref.nagano.lg.jp](mailto:hokushinky@pref.nagano.lg.jp)



## 一人ひとりが尊重され、元気が湧いてくる社会をめざして

### 平成30年度北信地区人権教育研修会を開催します

～自分を見つめ、新しい自分を発見し、出会いから学ぶ～

と き：平成30年7月19日（木） 午前10時から午後3時まで

ところ：長野市 東部文化ホール・柳原公民館

講 演：『部落差別解消推進法の施行における社会の変化と課題』（仮）  
部落解放同盟長野県連合会 執行役員さん

分科会：①学校における人権同和教育の取り組み

②企業における若者支援の取り組み

③性的マイノリティーの方々のつながり作りの取り組み

④障がい者スポーツ支援施設見学・体験（SUN APPLE）

⑤ワークショップ体験 ※参加体験型人権学習の実習講座



【問い合わせ】 北信教育事務所生涯学習課 担当:小島 豪（連絡先は上記参照）

# いじめ・不登校対策、SSW(スクールソーシャルワーカー)の訪問について

不登校やいじめ問題に悩む子どもたちの理解につとめ、どの子にも「居場所、生きがい、存在感」のある学校づくりをお手伝いします。

《いじめ・不登校地域支援チーム活動の重点ポイント》

- 1 早期発見、早期対応のための取り組み（いじめ・不登校相談員の計画訪問）
- 2 いじめ・不登校等に関する対応への支援（スクールソーシャルワーカー〈SSW〉やスクールカウンセラー〈SC〉の派遣、キラッ☆と笑顔 わくわく講座）
- 3 いじめや不登校が起こりにくい授業づくり、学級づくりを共に考える取り組み（指導主事による学校訪問、事務所だより、各種研修会）

北信教育事務所では、いじめ・不登校地域支援チームを設置し、学校・家庭・関係機関による地域支援体制をサポートしております。本年度は、SSWが6名体制となり、定期的な学校訪問や地域における支援体制の整備など、子どもを取り巻く環境の改善に向け、一層充実した総合的な支援を行ってまいります。

◎福祉に関する専門的な助言を必要とするケースに対し、SSWが本人を取り巻く環境も含めて問題解決への糸口を探り、福祉・医療機関等と連携して対応します。

◎学校が生徒の家庭状況に介入しにくいケースについても、学校から状況を聴かせていただき、家庭に関わるための適切な方法などを一緒に考えさせていただきます。

まずは「**いじめ・不登校地域支援チーム**」に**電話(026-234-9551)**でご相談ください。



## 〇いじめ・不登校相談員の声（湯田 博）

昨年、訪問要請をいただいた学校への訪問支援、および計画訪問で管内の小・中・特別支援学校・高等学校・教育支援センター等を訪問させていただきました。いじめや不登校（不登校傾向）に関わる自校の児童生徒の現状を再度見返すよい機会にさせていただけたのではないのでしょうか。また、新たな“いじめ・不登校”を生まないための学級づくりや居場所づくり等、未然防止、早期対応・早期支援についても確認させていただけたのではないかと思います。

長期欠席の中でも、不登校（不登校傾向）の児童生徒においては、それぞれの状況および起因する諸課題があります。課題解決の見通しや解消に向けての対応も、個々の状況に応じて苦慮することが多々あると思います。各校においては「不登校への対応の手引き」（改訂版）も活用していただきながら、校内の支援チームによる対応をはじめ、本年度全中学校に配置されたSC（スクールカウンセラー）の活用、SSWの要請、外部機関との連携を模索した取り組みが、チーム学校として行われていると思います。悩みを抱えた児童生徒が自ら殻を閉じ、引きこもってしまう前に、その子に寄り添いながら、適切な指導・支援が求められます。自らの力を湧き立たせ、一歩でも前に踏み出し、自立への足がかりをひとつでも掴んでくれることを切に願っています。

支援チームとして、生徒指導主任、指導主事、相談員および6名のSSWが一丸となり、微力ですが、児童・生徒、保護者ならびに学校現場の先生方のために支援のお手伝いができれば幸いです。

# 「キラッ☆と輝く 子どもの先生の笑顔」 vol.2

学校訪問で出会った「笑顔」を  
コラム風に紹介します

M小 二年 生活科(交流及び共同学習)「かいこさんとのくらし」  
自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍するTさん。原学級のF先生は、蚕との二年間の生活を通して、Tさんに「友と活動するよさを感じること(交流)」と「蚕への愛着を深めていくこと(共同学習)」を願っていた。

「食べた?」「え、食べた?」とTさんがうれしそうにつぶやいた。大切に育ててきた小さな蚕が桑の葉を食べた瞬間だった。Tさんのつぶやいた背景には、蚕との生活を通して、蚕を少しずつ愛おしく思っていく自分と、「友だちっていいな」と友の優しさを実感していく自分に気づく、Tさんの二年間の確かな学びがあった。◆一年前、子どもたちは蚕と出会った。初めて見る蚕は、Tさんにとって触ることをためらうような対象だった。大きくなった蚕が繭を作った。なぎになり、蛾へと育っていく。Tさんも自分の蚕の成長をこわごわと見守った。でも、Tさんの蚕は蛾になることはなかった。繭の中で死んでしまった蚕を目の当たりにしたTさんの蚕への思いが少しずつ変わり始めた。◆二年生になり、Tさんたちは三度目の蚕との生活を始めた。Tさんは二頭の蚕を育てていた。一頭は今にも繭を作りそうな大きな蚕で、もう一頭は生まれたばかりの小さな蚕だった。しかし蚕を見つめるTさんは困っているようだった。どうやら小さな蚕が桑の葉を食べず

に弱ってきているようだ。新しい桑の葉をあけてもまったく食べようとしないうちから、Tさんはどうしたらよいか分からず、何もできずにいた。◆「どうしたの?」とF先生は尋ねた。じっくりとTさんの話を聞いたあと、「誰か、こういうことあった?」と近くの子どもたちにTさんの思いを代弁した。NさんとSさんが、「うん、あったよ」「黄緑色の(若い)葉っぱをよく食べたよ」と答えると、雨が降る中、桑の葉を取りに走って行った。◆「あつたよ」と言いながら、Nさんたちが帰ってきた。Nさんは、ポケットからハンカチを取り出すと、取ってきた小さな桑の葉を大事そうにふいてTさんに手渡した。Tさんは、受け取った桑の葉をすぐに蚕にあげた。「食べた?」「え、食べた?」◆この日、Tさんは、蚕の成長を記すノートに、始め、大きな蚕の様子を書いていった。しかし、小さな蚕が桑の葉を食べる様子を見ると、Tさんはそれを消して、「小さなかいこは、くわの葉を食べませんでした。小さなくわの葉をあげたら、食べてくれました」とうれしそうに、安心してように書き直した。そして、小さな蚕を愛おしそうになてた。◆Tさんの姿からは、友への感謝と蚕への思いが伝わってきた。Tさんの学びを支えていたのは、Tさんの声に耳を傾け、まわりの子どもたちとTさんをつなげ、Tさんが動き出すのをずっと見守り続けてきたF先生の温かな姿だった。◆

【このエピソードから何を感じましたか?】

---



---



【このエピソードから大事に考えたいこと】  
○単元を通して、友と活動するよさ(交流)を味わったり、蚕への愛着(共同学習)を深めたりしたことは、Tさんが自分自身の変容に気づき、集団の中でも力を発揮して学べるきっかけとなったこと。

## 〈総務課からのお知らせ〉教科書展示会を開催します

小・中学校、高校で使用している教科書を展示します  
長野上水内教育会館の会場のみ、小・中学校の特別支援学級及び高校の教科書も展示します。  
展示場所及び日時等は次のとおりですので、どなたも自由にご覧ください。

番号	展示会場名	所在地	展示期間	開館時間
1	長野上水内教育会館	長野市中御所岡田町 15-5 Tel:026-226-2458	6月15日(金)～6月29日(金) 土日及び水曜の午後を除く	平日 9:00～17:00 水曜 9:00～12:00
2	更級教育館	長野市篠ノ井御幣川 1201 Tel:026-292-0419	6月15日(金)～6月29日(金) 土日及び水曜の午後を除く	平日 9:00～17:00 水曜 9:00～12:00
3	飯水教育会館	飯山市大字飯山 1114 Tel:0269-62-2531	6月19日(火)～7月3日(火) 土日祝日を除く	平日 9:00～17:30
4	中野市立図書館	中野市大字西条 1000 Tel:0269-26-5841	6月20日(水)～7月5日(木) 月曜及び6月29日(金)は除く	火～金 9:00～19:00 土日 9:00～17:00
5	須坂市中央公民館	須坂市須坂 747-1 Tel:026-245-1598	6月22日(金)～7月8日(日)	9:00～22:00
6	千曲市総合教育センター	千曲市大字桜堂 100 Tel:026-273-9101	6月25日(月)～7月9日(月) 土日を除く	平日 9:00～17:45

お問い合わせ先  
北信教育事務所 総務課 (電話:026-234-9549)